

本日の為替見通し

ポイント

最近、顧客よりの質問で、「重要な経済指標が予想よりも良い結果になったら相場はどうなるか?」との質問に対して、どのように答えたらよいのか、考え込んでしまうことが多い。

先週末の米雇用統計もそうである。非常に強い非農業部門雇用者数の増加と、失業率の低下に驚きながらも、「米景気回復や、金融緩和策見直し」のドル・ブル派と、「リスク許容度の拡大や、リスク資産買い=安全資産売り(含む USD)」のドル・ベア派とが入り乱れながらも、EURUSD は前日とほぼ同水準で、ドルインデックスは 78.991 → 78.924 と僅か 0.08% の低下に過ぎない。

結局、CAD(0.59%上昇)、AUD(0.53%上昇)、NZD(0.31%上昇)で、商品相場の影響を受け(除く NZD)「リスク資産」にも属し、高格付と欧州債務危機の影響が少ない「安全資産」にも属し、その時々を使い分けられるが、金利水準が比較的高いこれらの通貨がヒーロとなっている!

また、この強い雇用統計で、超低金利政策を継続する必要性はないのでは? との声も聞かれる。しかし、この発表後に実施された、米プライマリーディーラー(政府証券公認ディーラー)への調査では 20 社中 13 社となる 65% が、FRB は追加の量的緩和(QE3)の実施を予想、12 社中 9 社は 2012 年上期の実施、2 社は 2012 年半ば、1 社は 9 月の実施を予想している。

ギリシャ債務債券協定と第 2 次金融支援は、先週も合意に至らなかった。ベネゼロス・ギリシャ財務相は、銀行の資本増強や資産売却は合意ができたが、ギリシャ政府とトロイカ(EU、ECB、IMF)は労働改革(賃金引き下げ)や財政措置を巡りで合意ができずにいる。

事態が非常に深刻になっているのか、タイムリミットが直前に迫っているのか、ベネゼロス財務相は「成功と失敗の距離は非常に小さく、失敗は不運や誤解が原因となる恐れ」と発言、アッカーマン・ドイツ銀行 CEO は、ギリシャの債務削減交渉は運命を決する問題で、ギリシャ経済が崩壊すればパンドラの箱を開き、ユーロ圏の景気回復を台無しにすると発言し、またしても協議は再開されると言う。

明日の未明午前 1 時から予定されている EU 財務相会合は重要で(8 日に延期の可能性もある)、本日後 8 時 45 分に、メルケル独首相とサルコジ仏大統領の共同記者会見を予定している、ユーロ圏のリーダー会合を注目したい。

今週は、IMF 代表団が来日し、欧州危機問題や円高になっている為替市場などの、短期的なリスクを話し合う、これも興味深い。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.3031、この線を下限に上昇を続けている。DOPup=1.3430、DOPdn=1.2774。スロー・ストキャスティックは %K=74.41、%D=76.72、売りを継続し、ベースは買われ過ぎゾーン。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 100.23、この線を中心した相場が続いている。DOPup=102.99、DOPdn=97.98。スロー・ストキャスティックは %K=46.29、%D=53.67、売りを継続し、ベースはニュートラルゾーン。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 76.91、この線を割り込み下落がしている。DOPup=77.82、DOPdn=75.60。スロー・ストキャスティックは %K=17.79、%D=22.81 で、買いに変化する兆しが見られるが未確定で、ベースは売られ過ぎゾーン。

本日のCFD見通し

ポイント

非常に強い米雇用統計とISM非製造業指数で強まった、金価格の下落は、ギリシャ第2次支援の合意の遅れやイラン核開発阻止で軍事行動に発展しかねないリスクがサポートの材料となっている。イスラエル国防相は核開発阻止のため対イランへの軍事行動の可能性を示唆し、米バネッタ米国国防長官は4月の攻撃の可能性を表明している。大勢のデモ隊の死亡者が出たシリアは、アサド政権への反政府運動の弾圧停止の国連安保理決議を、ロシアと中国の拒否権で廃案となった。原油価格は在庫の大幅増加に下落していたが、地政学的リスクが原油価格をサポートしている。

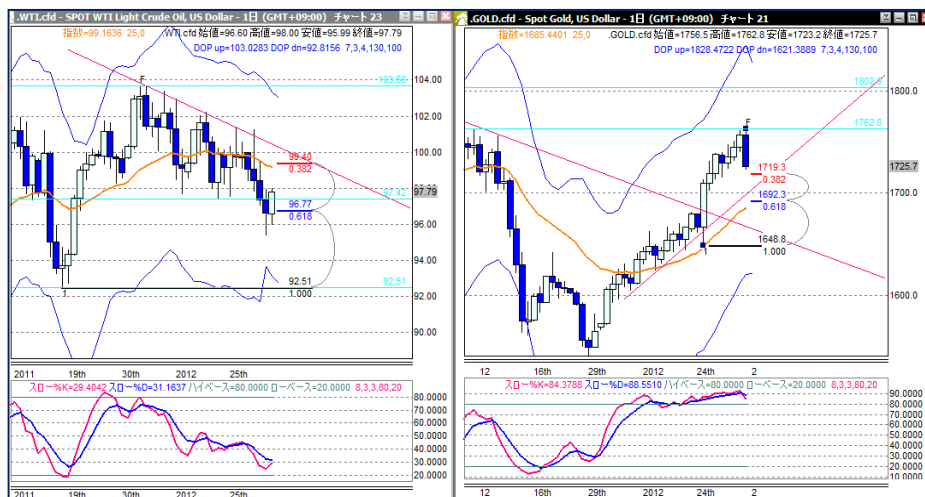
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは99.16で、引き続き下降トレンドが継続しているが、97.42のサポートラインを一度割り込んだが、再びこの水準を上回り下値不安がやや弱まっている。ストキャスティクスも下降トレンドの継続にシグナルははっきりしないが、買いに変化する可能性も出ており、底固めに入る可能性もある。上値のポイントは99.16、99.40、下値のポイントは96.77、92.51。

◎Spot.Gold

EMAは1685.44で、引き続き上昇トレンドが継続している。かい離幅は昨日の下げで調整は進んでいるが引き続き大きい。ストキャスティクスは長く続いている上昇トレンドでシグナルははっきりしないが、売りに変化し、引き続き調整売りが続く可能性もでてくる。上値のポイントは1762.8、1802.9、下値のポイントは1719.3、1692.3。

マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 99.16、この線を割り込み下落している。DOPup=103.35、DOPdn=93.14。スロー・ストキャスティックは%K=29.40、%D=31.16で、買いへ変化する兆しが見られるが不透明、ベースは売られ過ぎゾーン。
Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1685.44、この線を下限に上昇している。DOPup=1844.78、DOPdn=1620.27。スロー・ストキャスティックは%K=84.38、%D=88.55で、強い上昇トレンドの継続ではっきりとせず。ベースは買われ過ぎゾーンで推移。

2月6日(月曜日) 注目の経済指標 その他

発言・その他

- 17:00 ユーロ圏財務相代理会合
- 20:45 メルケル独首相とサルコジ仏大統領、議会終了後に共同記者会見
- 23:00 ブラード・セントルイス地区連銀総裁(講演)「インフレーターゲティング」
- 23:00 フランス短期国債入札
- 1:00 ユーロ圏財務相会合(8日に延期になる可能性もある)
- 2:15 フィッシャー・ダラス連銀総裁(講演)「経済と金融政策の見通し」

注目の経済指標

09:30 豪州 第4四半期 小売売上高

2月6日(月曜) 本日の主な経済指標と発表予定

8:30	AUD 1月 TD セキュリティーズ・インフレ=前月比予想 前回 0.5%、前年比予想 前回 2.4%
9:30	AUD 第4四半期 小売売上高=前期比予想 0.6% 前回 0.6%、
17:00	GBP 1月 ハリファックス住宅価格指数=前月比予想 0.1% 前回-0.9%、3か月・前年比予想-2.1% 前回-1.3%
18:30	EUR 2月 センティックス投資家信頼感=前月比予想-15.0 前回-21.1
20:00	GER 12月 製造業受注=前月比予想 1.0% 前回-4.8%、前年比予想-0.4% 前回-4.3%
0:00	CAD 1月 Ivey 購買部協会指数(PMI)=前月比予想 59.7 前回 63.5

先週末(2月3日)の海外市場の動き

注目の米雇用統計は、予想を大幅に上回る非農業部門雇用者数、予想を下回る失業率+米非製造業 PMI は、予想・前回を大幅に上回り、株価は急上昇、金利は上昇、リスクアセットが急騰。金価格は下落、AUD・NZD・CAD は上昇、円は下落。一方、懸案のギリシャ債務交換協議+第2次支援策は合意に至らず、ベネゼロス・ギリシャ財務相は多くを解決したが、重大な問題は未解決で協議を継続し、EU財務相会議は8日に延期へ。

- ◎中国の非製造業 PMI は前回から大幅に下回る→ 一時 AUD 売りが強まる
- ◎独・ユーロ圏の格 PMI は速報・予想をあまり変わらず
- ◎英国のサービス業 PMI は予想・前回を大幅に上回る→ 1.5850 を超え高値を付けるが、米雇用統計を控え買いも続かず
- ◎温家宝中国首相、中国は金融危機との闘いで欧州に協力する意向がある→ EUR 買いが強まる
- ◎ユーロ圏小売売上高は、ドイツとフランスの減少により予想を大幅に下回る→ 米雇用統計を控え EUR 売りは限定的
- ◎カナダ雇用統計は予想を下回り 1.0 のパリティを超え一時 1.0030 台まで上昇したが、後の米雇用統計の改善に 0.9920 台まで急落
- ◎米雇用統計の改善に、株式市場は大幅上昇、債券利回りは上昇、ドルは下落へ
- ◎米 ISM 非製造業指数総合は 1 年半ぶりの高水準で、景気指数、雇用指数、価格指数とも上昇→ 雇用統計後の流れが続く
- ◎IMF スタッフは日本の短期的なリスクについて協議のため来日
- ◎バラク・イスラエル国防相は、イランの核開発が最終段階で、軍事的な行動に移さざるを得ない状況まで至っている、パネッタ米国防長官は、イスラエルが 4 月にもイランを攻撃する可能性が高まると発言

USDJPY

アジア市場は、大枠 76.10~25 の狭いレンジで取引が続いた。欧州市場は、76.15 近辺を底値に、EURJPY の買いに 76.27 まで上昇したが、結局は米雇用統計を控え、大枠 76.15~25 のレンジ相場。米国市場では、非常に強い米雇用統計に、株価は上昇し、リスクアセット上昇=円売りの流れとなり、76.50 を超えると、ストップの買いに 76.69 まで上昇、米 ISM 非製造業も非常に強く、76.73 まで上昇したが上値は重く、大枠 76.50~60 のレンジで取引が続いた。

EURUSD

アジア市場は、1.3150 近辺を高値に、中国非製造業 PMI が弱く 1.3110 台まで下落、欧州勢の参入に 1.3150 台を回復した。欧州市場は、開始直後の 1.3124 の安値から、欧州小売売上高が非常に弱い数字となったが、強い英サービス業のポンド高の影響と、温家宝中国首相の「中国は金融危機との闘いで欧州に協力する意向がある」との発言に 1.3180 台まで上昇、USDCAD の上昇に 1.3160 割れまで値を下げた。米国市場は、非常に強い米雇用統計に、直後は 1.3140~1.3205 で激しく売り買いがぶつかり、ドル金利の上昇が続くと、1.3130 を割り込むとストップと機関投資家の売りに 1.3065 まで急落となった。1.30 の大台を試す力もなく、米現物株の上昇とリスクアセットが上昇、米 ISM 非製造業の強い数字にも売りは EUR 弱く、徐々に底値を切り上げ、1.3130 を超えると買い戻しが強まり、1.3170 近くまで上昇、大枠 1.3135~65 のレンジで取引が続いた。

AUDUSD

アジア市場は、1.0706 近辺を高値に、中国非製造業 PMI が弱く 1.0675 まで下落、1.0700 を戻り高値に 1.0671 まで弱含みで推移した。欧州市場は、上昇を続ける EURUSD の影響に 1.0681 の安値から 1.0720 台まで上昇、AUD クロスの売りに上値は重く、1.0680 近くまで値を下げた。米国市場に入り、非常に強い米雇用統計に 1.0750 台まで急伸、大枠 1.0705~1.0750 のレンジで激しい売り買いの攻防が続き、米 ISM 非製造業指数も非常に強く、1.0777 まで上昇、大枠 1.0760~75 のレンジから、1.0790 台まで上昇した。

金・原油価格

- ◎バネッタ米国国防長官(ワシントンポスト)、イスラエルがイランの核兵器開発の阻止目的で4月にもイランを攻撃する可能性が高まっている
- ◎バラク・イスラエル国防相、世界はイランの核開発が最終段階に入っていることに疑いを持っていない。軍事的な行動に移さざるを得ない状況まで至っている
- ◎シリア中部で政府軍が市民に発砲し市民217人が死亡 ◎対シリア安保理決議にロシアと中国が拒否権を行使し、廃案となる
- ◎ガゼミ・イラン石油相、EUの一部の加盟国に原油輸出を停止する

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、開始直後につけた96.78の高値から96.35近くまで下落、大枠96.35～60のレンジで取引が続いた。欧州市場は、一時96.16まで値を下げたが、欧州債券市場は強く、中国は欧州に協力する意向との報道に、97.00近くまで上昇、非常に強い米雇用統計を前に96.00近くまで値を下げた。米国市場は、米雇用統計の発表に株価が上昇、スクアセットの上昇に97.40台へ急伸、米ISM非製造業指数も非常に強く、大枠96.50～97.40のレンジで激しく売り買いが交錯、終盤にかけイスラエルのイラン核開発阻止へ軍事行動を危惧、98の大台近くまで上昇した。

◎Spot.Gold

アジア市場は、大枠1755～60のレンジで推移した。欧州市場は、大枠1755～60のレンジから、欧州債券市場は強く、中国は欧州に協力する意向との報道に1762台まで上昇、米雇用統計の発表を前に1753台まで下落→直前には1760台まで上昇。米国市場は、非常に強い米雇用統計の発表に、1762近くまで上昇→安全資産の売り+金融緩和見直しの思惑もあり1746台まで下落、1755台を戻り高値に、米ISM非製造業指数の発表時には1732台まで急落、大枠1735～1744のレンジから、終盤にかけ1723台まで続落した。

先週末(2月3日)の主な発言・出来事

欧州関連	モンティ・イタリア首相 = ◎財政規律はユーロ共同債の前提条件で、独首相とも意見は一致
ドイツ・オランダ・ルクセンブルク・フィンランド(ユーロ圏最上級AAA格付け国)財務相会合(関係者)	= ◎ギリシャを主な主題だが、第2次救済で公的支援の拡大の話し合いはなかった ◎債務減免で政府と民間債権者の協議結果を待つ
FT紙ドイツ版	= ◎ユーロ圏各国の中銀は、保有するギリシャ債の損失を受け入れる意向の可能性はある
温家宝中国首相	= ◎金融危機との闘いで欧州に協力する意向がある
ギリシャ財務省当局者	= ◎2011年の財政赤字の対GDP比は従来予想の9.5%超を下回る9.1～9.4%になる見込み
関係筋	= ◎イタリアはIMFの監視の条件緩和で協議を進めている

ギリシャ関連	パナギオス・ギリシャ財務相 = ◎ギリシャ第2次支援でEUやIMFとの協議は、12時間の長時間協議で多くを解決したが、重大な問題の解決が必要 ◎民間部門関与(PSI)は協議の中でも比較的容易な部分 ◎4日電話会談をし、EU財務相会合は予定を変更し8日に開く
ユーロ圏当局者、ギリシャ救済支援で保有債券の活用を検討	= ◎1案は、ECB保有のギリシャ債を購入価格でEFSFに売却 ◎2案は、ユーロ圏中銀に保有するギリシャ債の利益放棄や損失受け入れを求める
パパデモス・ギリシャ首相	= ◎第2次救済に向けた協議は最終局面に入った
複数のEU関係者(3日)	= ◎ギリシャ第2次支援策で最大1450億ユーロ(従来1300億ユーロ)になる可能性 ◎10月首脳会議の合意から、ギリシャ向け資金=1000億ユーロ→1150億ユーロ、民間債権者の債務減免=300億ユーロ(変わらず)になる可能性 ◎ユーロ圏一部の国は納税者負担になると反発 ◎ECBのギリシャ債務減免は結論が出ず
パナギオス・ギリシャ財務相(4日)	= ◎成功と失敗の距離は非常に小さく、失敗は不運や誤解が原因となる恐れもある ◎銀行の資本増強や資産売却は合意ができたが、ギリシャ政府とトロイカ(EU、ECB、IMF)は労働改革や今年の財政措置で意見が対立 ◎ユーロ圏財務相との交渉は非常に難しかった ◎未解決の問題は、ギリシャへの追加支援の必要額、ギリシャの追加財政緊縮の必要額、ECBの債務スワップの関与
アッカーマン・ドイツ銀行CEO(4日)	= ◎ギリシャの債務削減交渉は運命を決する問題で、ギリシャ経済が崩壊すればバンドラの箱を開き、ユーロ圏の景気回復を台無しにする ◎民間債権団は70%強の債務削減を提案
ギリシャ財務省当局者(4日)	= ◎ギリシャ第2次支援でトロイカとの交渉では、主に労働問題で最低賃金の引き下げで行き詰まっている
ギリシャ報道官	= ◎パパデモスギリシャ首相は各党党首が新金融支援パッケージの条件に同意しなければ、辞任する可能性があるとの報道を否定
ユンケル・ユーログループ議長	= ◎6日にギリシャ救済プログラムに関する協議を開催する予定はない

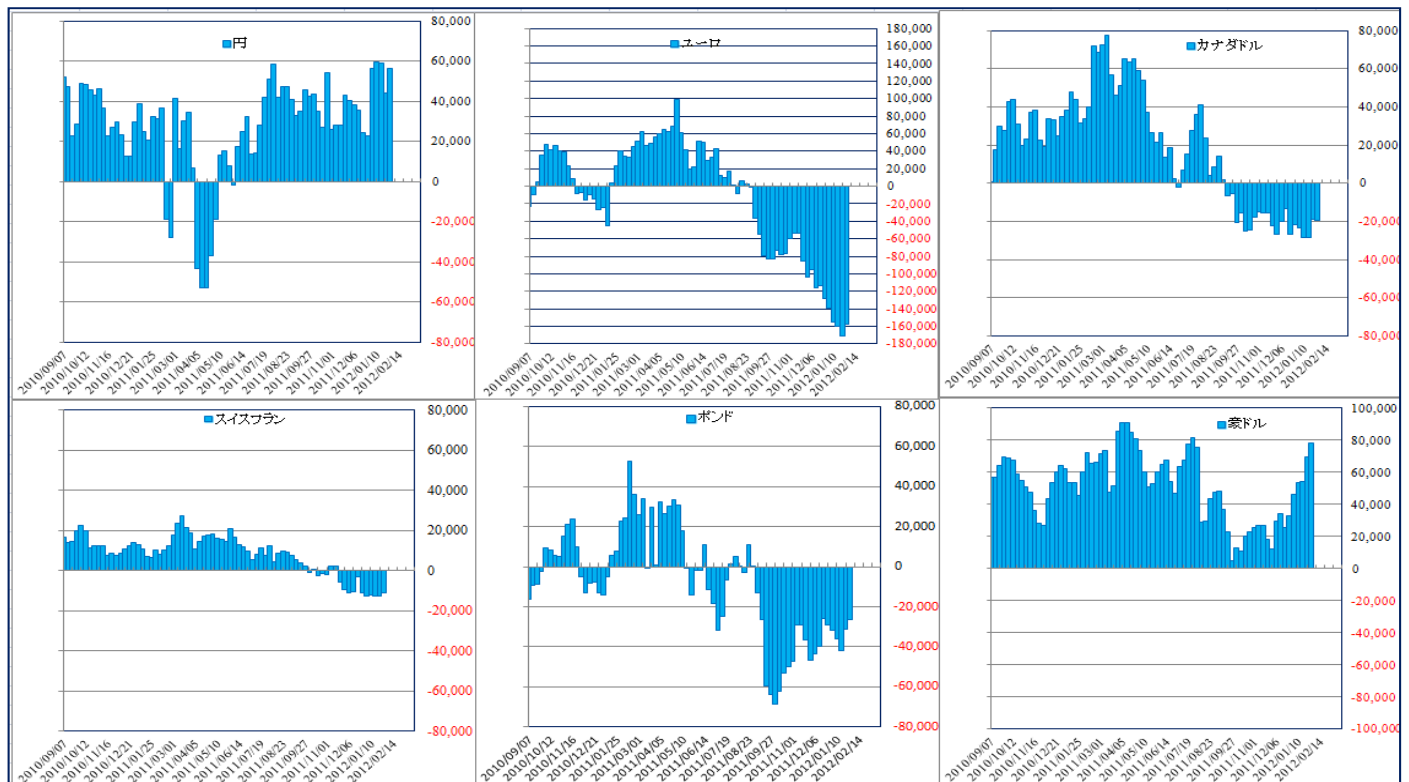
USD	ロイター調査 = ◎米プライマリーディーラー(政府証券公認ディーラー)への調査では20社中13社は、強い米雇用統計の結果にもかかわらず、FRBは追加の量的緩和(QE3)の実施を予想 ◎12社中9社は2012年上期の実施、2社は2012年半ば、1社は9月実施を予想
-----	---

USD	市場筋 =◎米雇用統計で、非農業部門雇用者数が大幅に改善したのは、臨時の雇用者の需要拡大が要因
USD	ブラード・セントルイス連銀総裁 =◎最近の経済ニュースや指標は予想を上回り、追加の量的緩和を検討するには、景気の著しい悪化や一定のデフレリスクや、インフレリスクが目標を大幅に下回る状況の確認が必要 ◎追加の量的緩和を決定した2012年終盤とは、インフレ率が低水準で現在は2%の目標値を上回り今の経済情勢とは異なる
CHF	スイス中銀の監督委員を兼務する、スイス労働組合主席エコノミスト =◎スイスが現在必要としているのは、より積極的な中銀で、EURCHF1.40に引き上げるべき(現行1.20が目標レートでこの水準近くで取引されている)
OTH	ブラジル中銀ドル買い介入実施 =◎中銀は自国通貨レアル上昇を抑制するために昨年7月以来となるドル買い介入を実施
JPY	IMF スタッフ日本訪問 =◎2月6日～13日にかけて日本を訪問し、欧州での危機や円高になっている為替市場などの、短期的なリスクを話し合う ◎訪問団は、リスク緩和のための政策選択しの検証を試みる ◎構造改革や金融政策を通じデフレ退治や潜在成長率を引き上げるための可能な一段の措置を調べる

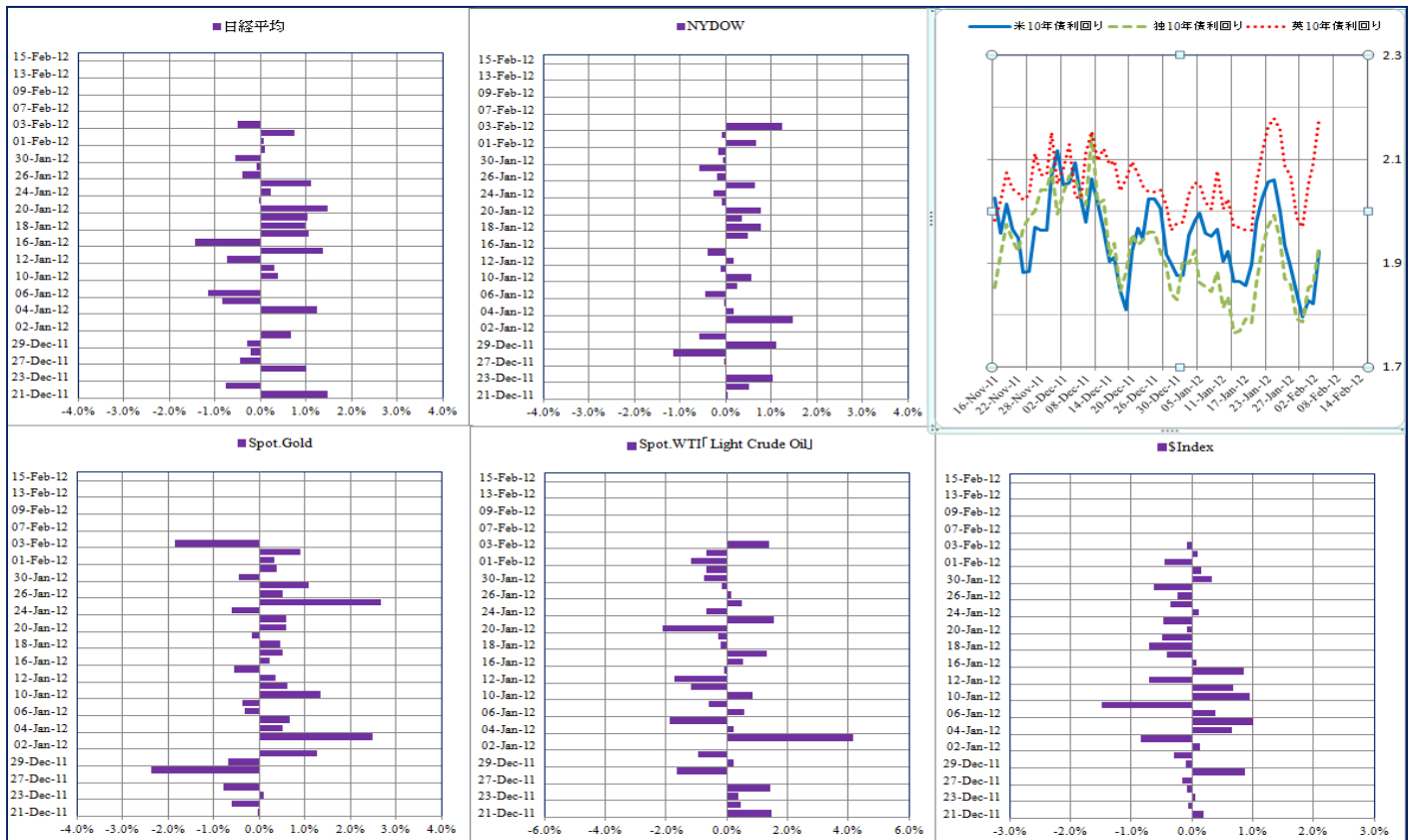
先週末(2月3日)の経済指標と結果

7:30	AUD 1月 AIG サービス業指数=51.9(前回 49.0)
10:00	CHN 1月 非製造業 PMI=52.9(予想 前回 56)
11:30	CHN 1月 サービス業 PMI=52.5(予想 前回 52.5)
17:55	GER 1月 サービス業 PMI・確報=53.7(予想 54.5 前回 54.5)
18:00	EUR 1月 総合 PMI・確報=50.4(予想 50.4 前回 50.4)、サービス業 PMI・確報=50.4(予想 50.5 前回 50.5)
18:30	GBP 1月 サービス業 PMI・確報=56.0(予想 53.3 前回 54.0)
19:00	EUR 12月 小売売上高=前月比-0.4%(予想 0.3% 前回-0.4←-0.8%)、前年比-1.6%(予想-1.3% 前回-1.5←-2.5%)
21:00	CAD 1月 失業率 =7.6%(予想 7.5% 前回 7.5%)、雇用ネット変化率=2300人(予想 22000人 前回 21700←17500人)、労働参加率=66.7(予想 66.6 前回 66.7←66.6)
22:30	USD 1月 失業率 =8.3%(予想 8.5% 12月 8.5% 11月 8.7%)、非農業部門雇用者数=24.3万人(予想 14万件 12月 20←20万件 11月 15.7←10万件)、民間部門雇用者数 25.7万人(予想 18.1万人 12月 22.0←21.2万人 11月 17.8←12.0)、時価当り平均賃金=23.29ドル・0.2%(予想 0.2% 12月 23.25←23.24ドル・0.1←0.2%、11月 23.23←23.20ドル)、週間平均労働時間=34.5(予想 34.4 12月 34.5←34.4 11月 34.4←34.3時間)
0:00	USD 1月 ISM 非製造業指数(総合 NMI) =56.8(予想 53.2 12月 53.0←52.6)、景気指数=59. (12月 55.9 11月 56.1)、価格指数=63.5(12月 62.0 11月 62.2)、雇用指数=57.4(12月 49.8 11月 50.3)
0:00	USD 12月 製造業受注数=1.1%(予想 1.5 前回 2.2←1.8%)

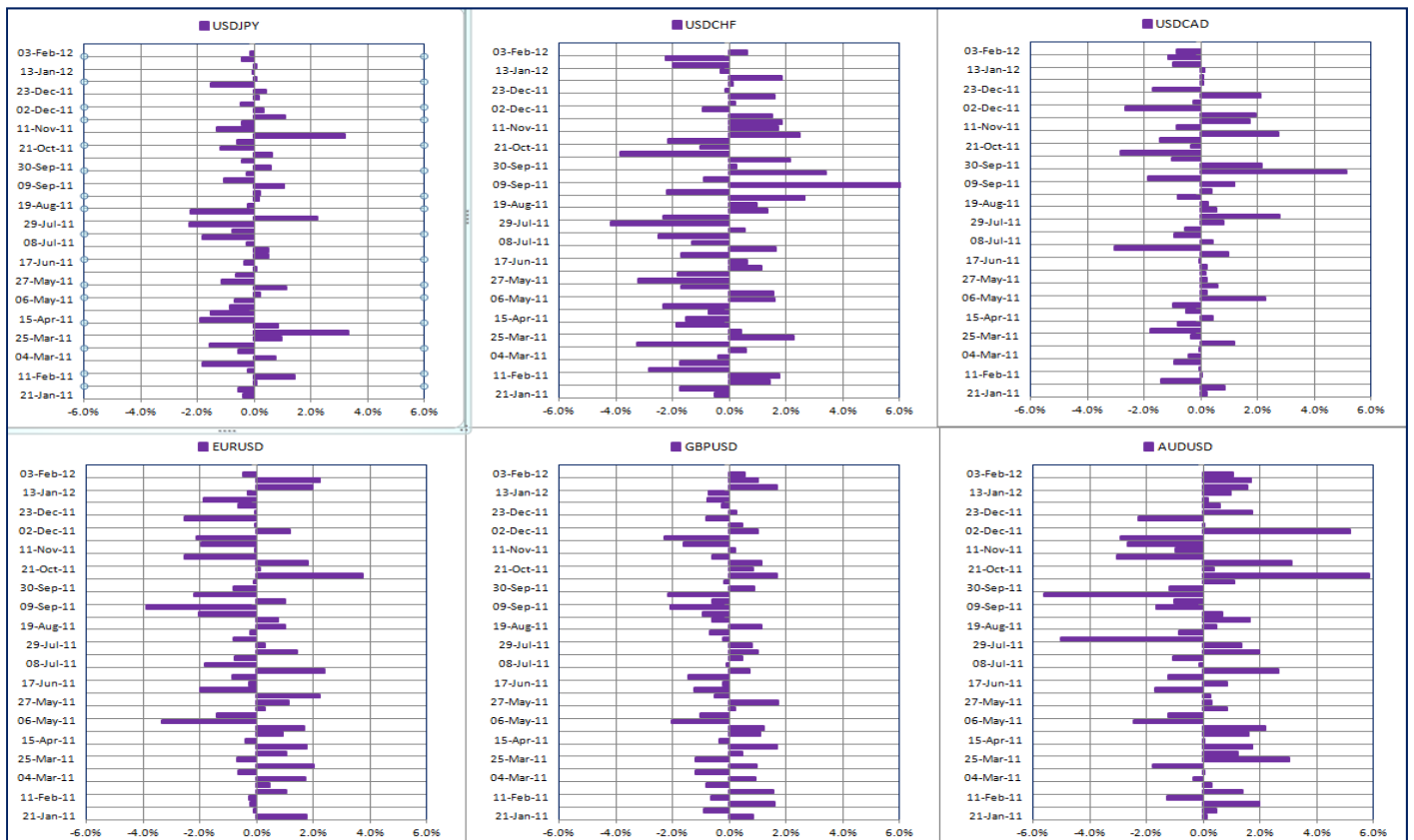
CFTC 発表の IMM 通貨先物の取り組み(1月31日まで発表)



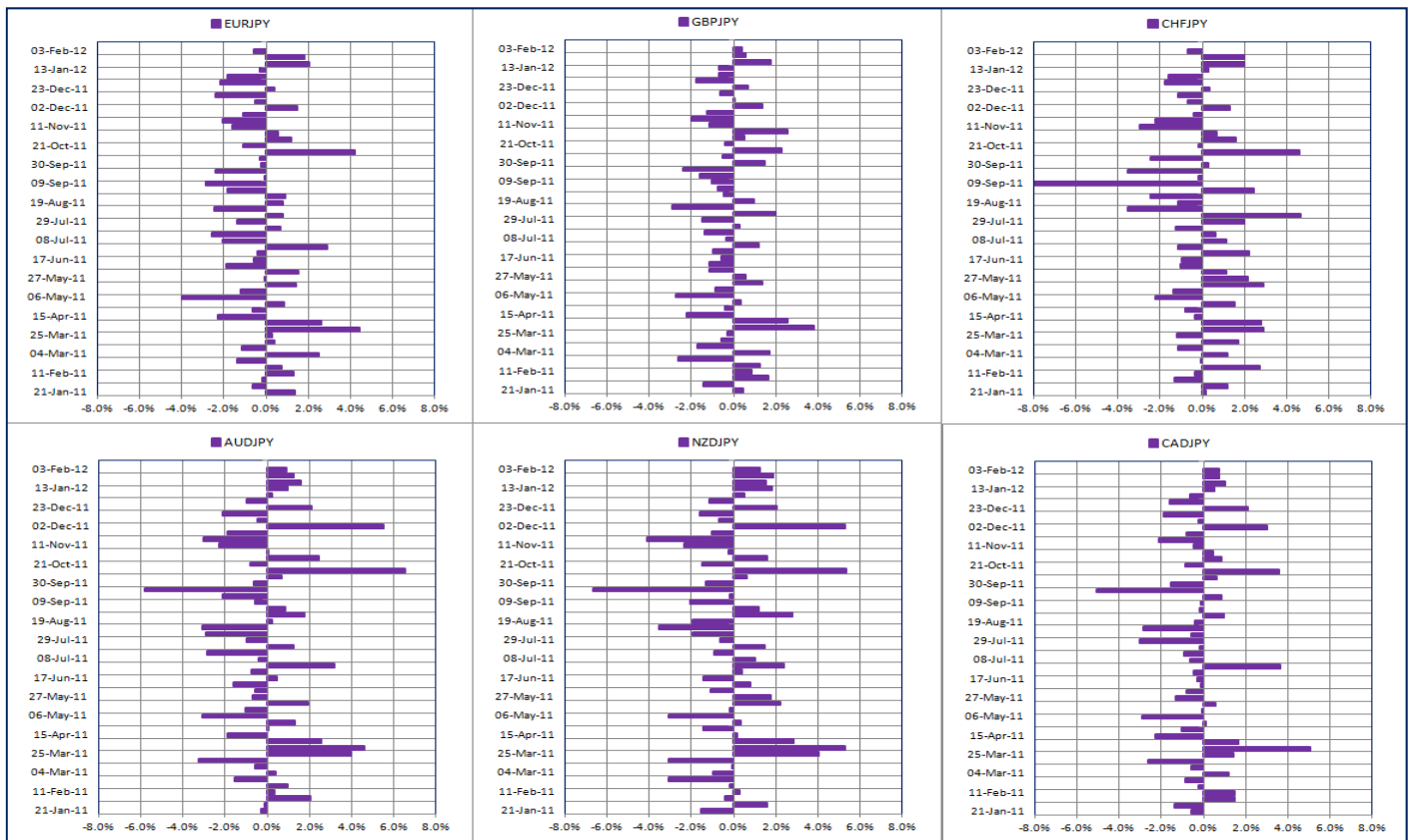
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011